

# BUSINESS REPORT

第**98**期 報告書

2020年4月1日 ▶ 2021年3月31日



いつも となりに おいしいキヨクヨー





代表取締役社長  
井上 誠

企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第98期(2021年3月期)報告書をお届けいたします。

この一年、キョクヨーグループでは、新型コロナウイルスの世界的な拡大で事業環境が大きく変わる中、中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』の最終年度として、食品事業、海外事業の拡大と資源アクセス、商品開発の強化に取り組み、事業構造および資本政策の均衡を推進してまいりました。

そして4月からは『経営基盤の強化を図りながら、「事業課題への継続的取り組み」と「持続的成長への挑戦」を柱とする戦略を進め、社会と極洋それぞれが共有すべき価値を創造していくことで、新たな成長への礎となる「高収益構造への転換」を目指す。』ことを基本方針とした、新中期経営計画『Build Up Platform 2024』をスタートさせております。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月

# 「Change Kyokuyo 2021」から「Build Up Platform 2024」に向けて

## 前中期経営計画の振り返りと当期(2021年3月期)の概況

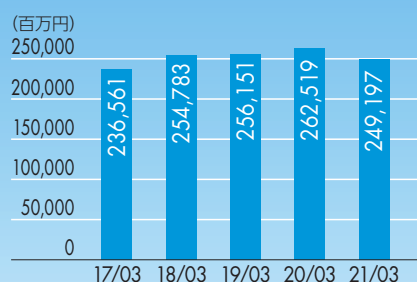
当社グループはこの3年間、中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』(2018年度~2020年度)の『魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す』という基本方針のもと、『ESG重視の事業活動』を通じて『拡大』『強化』『均衡』の各戦略を進め、高収益構造へ大きく転換していくことを目指し、目標達成に向け取り組んでまいりました。

食品事業・海外事業の『拡大』に向け、販売が伸長する煮魚、焼き魚の生産拠点としてタイに子会社を設立し、資源アクセスの『強化』を目的に水産加工会社、養殖事業会社をグループ会社化したほか、ブランド『強化』のためテレビCMの放映を開始いたしました。また、資本政策の『均衡』に取り組み、自己資本比率やD/Eレシオ向上などによる財務体質の改善を図ってまいりました。

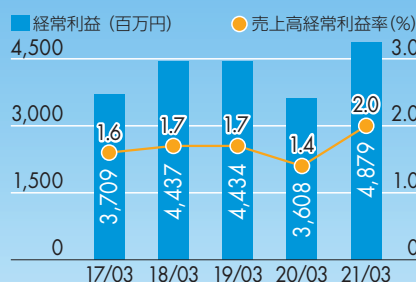
そして、『Change Kyokuyo 2021』の最終年度であった当連結会計年度は、世界経済においては、新型コロナウ

### 主な連結財務指標

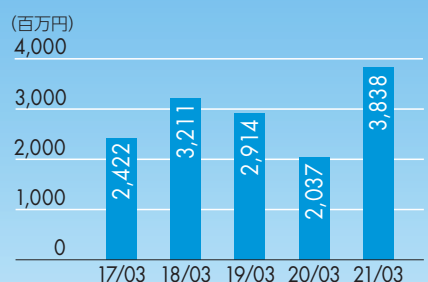
#### 売上高



#### 経常利益 / 売上高経常利益率



#### 親会社株主に帰属する当期純利益





ウイルス感染症拡大により急激に悪化し、わが国経済においても、経済活動が停滞し、個人消費や雇用に大きな影響を与えました。一時的に持ち直しの動きが見られましたが、再び感染拡大がみられるなど、先行きは不透明な状況が続いております。

水産・食品業界におきましても、新しい生活様式の浸透により消費者ニーズや購買動向に変化が見られるとともに、外出自粛や外食店の営業時間短縮などにより、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもとで目標達成に向け取り組んだ結果、当社グループの売上高は2,491億97百万円(前期比5.1%減)、営業利益は46億57百万円(前期比59.6%増)、経常利益は48億79百万円(前期比35.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は38億38百万円(前期比88.4%増)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

水産商事セグメントでは、世界的なコロナ感染拡大により、日本産水産物の輸出や海外現地法人の業務筋向け販売が大きく落ち込みました。国内販売については、外出自粛の影響により外食・業務筋の需要が減少したことを受けて、巣ごもり需要で水産物の取扱いが伸びた量販店等への販売に注力しましたが、全体の落ち込みをカバーするには至りませんでした。収益面では供給過剰となったホッケの相場が下落するなど、一部の商品で損失が発生しましたが、年初より安値圏で推移した鮭鱒の取扱量が増加したことから、計画を上回る利益を確保しました。また、年末商戦では家庭におけるプチ贅沢ニーズにより、カニ・エビなどの高額商

材の販売が好調に推移し、利益が改善しました。この結果、売上は前期を下回りましたが、利益は前期を上回りました。

冷凍食品セグメントでは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外食・業務筋の需要が大幅に減少し、えびフリッターや水産フライの販売低迷が続きました。こうした状況の中、量販店への拡販に注力した結果、家庭用冷凍食品はドラッグストア向けなどが伸長し、寿司種、生食商材も徐々に回復してきましたが、全体の落ち込みをカバーするには至りませんでした。この結果、売上・利益とも前期を下回りました。

常温食品セグメントにおいて、缶詰は、緊急事態宣言の影響による備蓄需要の増加などもあり、前期並みの利益を確保しました。また、珍味製品はコロナ禍における家飲み需要の増加や、新製品の投入などにより、販売が順調に推移しました。この結果、売上は前期を下回りましたが、利益は前期を上回りました。

物流サービスセグメントでは、新型コロナウイルス感染症の影響により当初は荷動きが鈍化したものの、回転のよい貨物の集荷に注力し、入在庫量が増加しました。また、貨物を委託する運送会社網を拡大し、配送事業強化に努めました。この結果、売上・利益とも前期を上回りました。

鰹・鮪セグメントにおいては、海外まき網事業ではカツオ魚価の低迷が続き、売上高が減少しました。一方で、国産養殖クロマグロの販売が伸長し、コロナ禍で好調であった量販店向けを中心にマグロタタキなどの加工品の販売も順調に推移しました。この結果、売上・利益とも前期を上回りました。

## ● 新中期経営計画および次期(2022年3月期)の計画目標

次期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるなか、海外経済の回復効果もあり持ち直していくことが期待されるものの、依然として感染の動向が内外経済に与える影響に十分注意する必要があります。水産・食品業界におきましても、外食向けの需要減や人手不足による労働コストの上昇など、引き続き厳しい経営環境が予想されます。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画『Build Up Platform 2024』(2021年度～2023年度)の

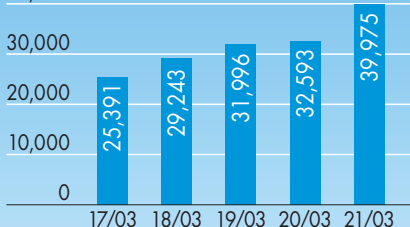
初年度をスタートさせ、新たな目標に向け取り組んでまいります。次期の連結業績は、売上高2,500億円、営業利益50億円、経常利益50億円、親会社株主に帰属する当期純利益35億円を見込んでおります。

### 2024年3月期目標値

売上高3,000億円 営業利益70億円 経常利益65億円  
海外売上高300億円  
D/Eレシオ1.5倍、営業利益率・経常利益率2%超

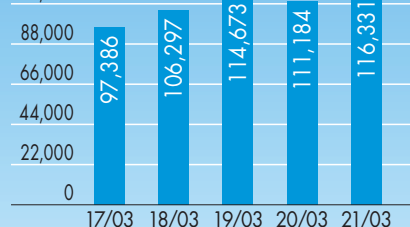
### 純資産

(百万円)  
40,000



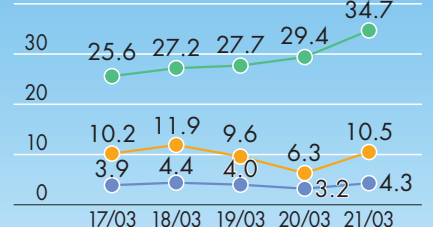
### 総資産

(百万円)  
110,000



### 自己資本比率／自己資本利益率(ROE)／総資産経常利益率(ROA)

(%) ● 自己資本比率 ● ROE ● ROA



## TOPICS

2020.4-2021.3

## 極洋水産(株)の新工場が本格稼働開始

静岡県にある同社大井川工場の敷地内に建設した、マグロ加工品の新工場が本格稼働を開始いたしました。

## コーポレートサイトを全面リニューアル

スマートフォンでの閲覧性・操作性を向上させ、「サステナビリティ」コンテンツを新設したほか、海外事業の拡大に伴い英語版サイトのコンテンツを充実させました。

2020年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

2021年

## KYOKUYO GLOBAL SEAFOODS Co., Ltd.の工場が生産開始

2019年に設立した同社の工場が煮魚、焼き魚、生食用商品の生産を開始しました。



## 極洋水産(株)がEU HACCPを取得

4月に本格稼働を始めた新工場が、生食用冷凍マグロのロイン、ブロック、サクについてのEU HACCPを取得いたしました。



## サステナビリティ

## SeaBOSキーストーン・ダイアログ参加

世界最大手の水産企業と科学者から成るイニシアチブ「海洋管理のための水産事業」(SeaBOS)の第5回キーストーン・ダイアログ(メンバー企業のCEOと科学者による会議)が2020年10月ウェブ会議で開催され、当社からは井上社長が出席しました。

会議では、SDGsの目標14「海洋と海洋資源の保全、および持続可能な利用」の達成に向けて、IUU漁業の削減、強制労働の排除、水産物のトレーサビリティ、水産養殖における抗生物質使用の削減、海洋プラスチック汚染や気候変動への対策などについて議論が交わされ、それぞれの課題の解決に向けた方針と具体的な行動が合意されました。

「魚を中心とした総合食品会社」であるキョクヨーグループにとって、水産物の主要な供給源である海洋環境や資源に関する取り組みは、事業の基盤の維持という観点からもとても重要です。キョクヨーグループは、SeaBOSの取り組みを通じて、健全な海洋と持続可能な水産業の実現を目指してまいります。



ウェブ会議の様子

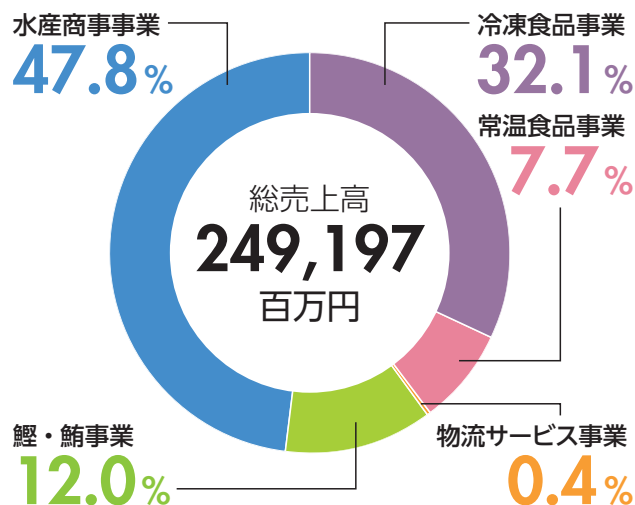
キョクヨーグループ  
統合報告書2020発刊

当社では、社会とともに持続可能な発展を追求する姿勢を、長期的かつ総合的な視点から、より明確にお伝えしていくことが重要であると考え、これまでのCSR報告書に替え、統合報告書を発行いたしました。

株主・投資家をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆さまに、持続的な成長のための「価値創造ストーリー」を軸に、財務情報と非財務情報を事業戦略やCSR活動、ガバナンス体制などの報告を通じてお伝えし、コミュニケーションの充実を図ることで、社会から信用される企業を目指してまいります。



### セグメント別売上高構成比

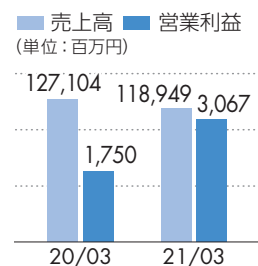


### 水産商事事業

- 売上高 118,949 百万円
- 営業利益 3,067 百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身製品やカニ、エビの剥き身製品などを提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚介類の輸出や三国間貿易を積極的に行い、水産物の有効利用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化へも対応しています。



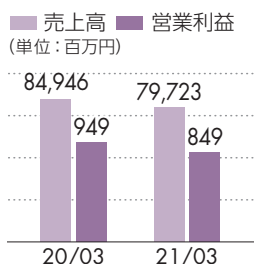
ギンザケ

### 冷凍食品事業

- 売上高 79,723 百万円
- 営業利益 849 百万円

寿司種を中心とした生食用商品を外食チェーンなどへ販売しているほか、簡便性の高い「だんどり上手」シリーズなどの加熱用商品を高齢者施設や病院に販売しています。

また、水産フライ類やカニ風味かまぼこをはじめ、畜肉製品や冷凍野菜などを外食ルートや量販店惣菜売場向けに販売しています。市販用では個包装した焼き魚、煮魚やフライ製品に加え、米飯などを提供しています。

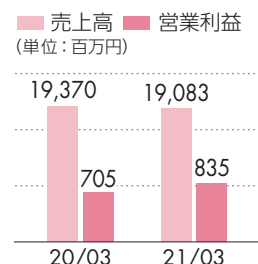


だんどり上手  
さば切身(骨なし)

### 常温食品事業

- 売上高 19,083 百万円
- 営業利益 835 百万円

1949年の缶詰製造から始まった長い歴史を持つ事業です。現在ではサバ、カツオ、イワシなどの魚介缶詰のほか、畜肉缶詰なども取りそろえ、「シーマルシェ」ブランドの商品もラインアップして製品力の強化を図っています。また、あたりめ、さきイカなどの珍味類のほか、グルコサミンやDHAなどの健康食品も販売しています。

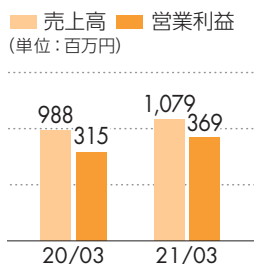


(右)紅鮭水煮 アメリカ(アラスカ)産  
(左)DHA・EPAプラス クリルオイル

### 物流サービス事業

- 売上高 1,079 百万円
- 営業利益 369 百万円

冷蔵倉庫事業を中心に東京の大井及び城南島、福岡の3事業所体制でロジスティクス・サービスを提供しております。

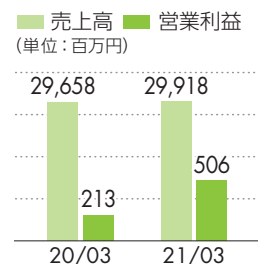


キョクヨー秋津冷蔵(株)  
東京事業所

### 鯉・鮪事業

- 売上高 29,918 百万円
- 営業利益 506 百万円

カツオ、マグロの漁撈・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。カツオについては、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」など独自の調達力があります。マグロについては、限りある水産資源の保護と安定的供給のために、四国で養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」に加え、天然稚魚に頼らない完全養殖クロマグロ「本鮪の極 つなぐ<TUNAGU>」も国内外からご好評をいただいております。



本鮪の極 つなぐ<TUNAGU>

○ **会社概要** 2021年3月31日現在

社名 株式会社 極洋  
 英文社名 KYOKUYO CO., LTD.  
 本社所在地 〒107-0052  
 東京都港区赤坂三丁目3番5号  
 設立 1937年9月3日  
 資本金 56億6千4百万円  
 主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、  
 加工食品及び冷凍食品の製造販売  
 従業員数 2,313名(連結) / 682名(個別)  
 連結対象会社数 25社

○ **役員の状況** 2021年3月31日現在

**役員**  
 代表取締役社長 井上 誠 取締役 檜垣 仁志  
 代表取締役専務 酒井 健 取締役 三浦 理代  
 常務取締役 近藤 茂 取締役 白尾 美佳  
 常務取締役 木山 修一 常勤監査役 田村 雅治  
 取締役 田中 豊 常勤監査役 菅野 洋一  
 取締役 西村 斉之 監査役 松行 健一  
 取締役 傍島 康之 監査役 志村 和彦  
 取締役 山口 敬三

○ **株主優待のご案内**

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

**株主優待の内容**

**対象株主** 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上所有の株主様  
**優待の内容** ●1単元(100株)以上3単元(300株)未満所有の株主様には2,500円相当の当社製品を贈呈  
 ●3単元(300株)以上所有の株主様には6,000円相当の当社製品を贈呈  
**贈呈時期** 毎年7月予定

○ **株主メモ**

事業年度 4月1日～翌年3月31日  
 定時株主総会 毎年6月  
 定時株主総会基準日 3月31日  
 期末配当金基準日 3月31日  
 公告方法 当社の公告方法は、電子公告としております。  
 公告掲載URL : <https://www.kyokuyo.co.jp>  
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、東京都内において発行される日本経済新聞に掲載する方法により行います。  
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 東京都府中市日鋼町1-1  
 電話:0120-232-711(フリーダイヤル)  
 郵送先:〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

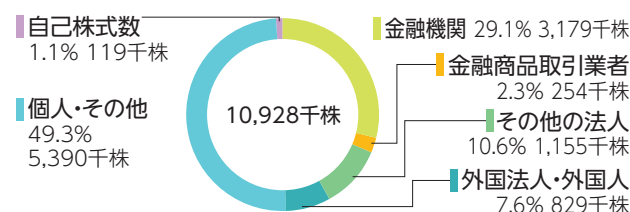
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

○ **株式の概況** 2021年3月31日現在

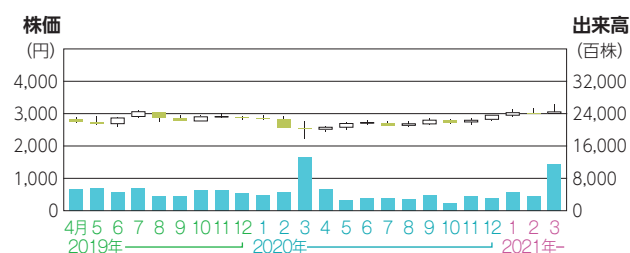
発行可能株式総数 43,700,000株  
 発行済株式の総数 10,928,283株  
 株主数 30,036名  
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	925	8.56
株式会社りそな銀行	523	4.84
農林中央金庫	445	4.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	373	3.45
東洋製糖グループホールディングス株式会社	315	2.91
三井住友海上火災保険株式会社	250	2.31
東京海上日動火災保険株式会社	224	2.07
極洋秋津会	174	1.61
中央魚類株式会社	139	1.29
極洋さつき会	131	1.21

**所有者別株式数分布状況**



**株価及び出来高の推移**



**WEBサイトのご案内**

キョクヨーの事業概要やESGに関する情報、商品や商品を使ったレシピのほか、IR関連など最新の情報を掲載しております。  
 スマートフォンでもご覧いただけますので、右下のQRコードをご活用ください。



<https://www.kyokuyo.co.jp>

